

食事・運動療法を行っている 糖尿病患者さんの主なストレス要因

PAID質問項目(スコア \geq 5)で最も不安に感じる項目は？

1位

将来のことや重い合併症になる
かもしれないことが心配である。



- 2位 糖尿病を管理していくことから脱線した時、罪悪感や不安を感じる。
- 3位 常に食べ物や食事が気になる。
- 4位 食べ物や食事の楽しみを奪われたと感じる。
- 4位 糖尿病の治療法について、はっきりとした、具体的な目標がない。
- 6位 糖尿病を持ちながら生きていくことを考えるとゆううつになる。
- 6位 自分が糖尿病であることを受け入れていない。
- 8位 糖尿病を持ちながら生きていくことを考えるとこわくなる。
- 9位 自分の糖尿病の治療法がいやになる。
- 10位 自分の気持ちや感情が糖尿病と関連しているかどうか分からない。
- 11位 低血糖が心配である。
- 11位 自分が今持っている糖尿病の合併症に対処していくことが難しいと感じる。
- 11位 糖尿病を持ちながら生きていくことを考えると腹が立つ。
- 14位 糖尿病の治療に関連して、周りの人たちから不愉快な思いをさせられる。
- 14位 糖尿病に打ちのめされたように感じる。
- 16位 糖尿病のために、毎日多くの精神的エネルギーや肉体的エネルギーが奪われていると思う。
- 17位 糖尿病を管理するために努力しつづけて、燃え尽きてしまった。
- 18位 糖尿病を診てもらっている医者に対して不満がある。
- 18位 自分が糖尿病管理のために努力していることに対して、友人や家族は協力的でないと感じる。
- 20位 糖尿病のせいでひとりぼっちだと思う。

患者さんは糖尿病治療を行うにあたって、たくさんの不安やストレスを持っています。なかでも、「将来のこと・重い合併症になるかもしれない」ことは、患者さんにとって大きなストレス要因であると考えられます。

対象・方法: 一般医を受診する2型糖尿病患者815名にPAID質問票に回答してもらい、その結果を治療法(食事療法のみ、経口薬のみ、インスリン)ごとに比較した。

主な結果: PAIDスコアはインスリン使用患者で有意に高かった(vs 経口薬、vs 食事療法ともに $P<0.001$)。一方、食事療法のみ患者と経口薬のみ患者では、スコアに差はなかった。すべての治療法において、将来および合併症への不安、治療を逸脱した場合の罪悪感のスコアが高かった。